

7 鉄骨工事	18 錆止め塗料 (7.8.4) (18.3.2)	塗料の種類 鉄鋼面の錆止め塗料 表18.3.1による A種 B種 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 表18.3.2による A種 B種 C種 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) 表18.3.1による A種 B種 耐火被覆材の接着する面への塗装 行わない 行う (範囲 図示による ) 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 行わない 行う (範囲 図示による )
		9 防水工事
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント断熱工事	1 補強コンクリート ブロック造 (8.2.2) ~(8.2.8) 2 エンボウ板壁 及び壁 (8.3.2) ~(8.3.4)	ブロックの種類 16 (C種) 普通ブロック 16-II (C種) 防水ブロック モジュール呼び寸法及び正味厚さ 図示による コンクリートの設計基準強度 $F_o(N/mm^2)$ 充填用及びまぐさ 21 以上 上記以外 21 以上 各部の配筋 図示による 目地仕上げ 押し目地仕上げ 化粧目地仕上げ モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 図示による
		2 改質アスファルト シート防水 (9.3.2) ~(9.3.4)
③ ALCパネル (8.4.2) ~(8.4.5)	2 押出成形板 (ECP) (8.5.2) ~(8.5.5)	ブロックの種類 (表8.3.1) 適用箇所 種類 の記号 間仕切壁、地下二重壁、外壁、塙 空洞ブロック 16 外壁の化粧積み ○ 空洞ブロック 16-II モジュール呼び寸法及び正味厚さ 図示による 塙の厚さ 図示による 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 図示による 各部の配筋 図示による 化粧ブロック 有 ( ) ブロック塙の基礎及び控壁のコンクリートの設計基準強度 $F_o(N/mm^2)$ 18 21
		3 合成高分子系 シート防水 (9.4.2) ~(9.4.4)
4 押出成形板 (ECP) (8.5.2) ~(8.5.5)	3 タイル工事	パネルの種類 (表8.4.2) (表8.4.3) (表8.4.4) 区分 単位荷重(N/m <sup>2</sup> ) 厚さ(mm) 構造 耐火性能 外壁 A種 1180 1960 100 A種 B種 有り (1時間) 無し 間仕切 B種 640 100 C種 E種 有り (時間) 無し 屋根 A種 980 100 F種 有り (時間) 無し 床 B種 2350 3530 100 F種 有り (時間) 無し 150 無し パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による 外壁A種の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 A種の最小限度 300 mm A種の出隅及び入隅のA種接合部並びにA種と他部材との取り合い部の目地幅 20 mm 伸縮目地への耐火目地材の充填 適用する 適用しない 外壁パネル構造及び間仕切壁パネル構造における耐震性能
		4 下地及びタイル ごしらえ (11.2.6)
5 特殊部位の石張り (10.2.2) (10.7.1) ~(10.7.3)	4 床及び階段の 石張り (10.6.2) (10.6.3)	パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 図示による 外壁A種の工法 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 A種の最小限度 300 mm A種の出隅及び入隅のA種接合部目地の目地幅 15 mm 外壁パネル構造及び間仕切壁パネル構造における耐震性能 やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下地の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。
		5 張り付け材料 (11.3.3)

9 防水工事	① アスファルト防水 (9.2.2) ~(9.2.5)	種別 (表9.2.3) ~ (表9.2.9) 防水層 施工箇所 保護防水 A-1 A-2 A-3 表9.2.3 屋根(車庫棟) A1-1 A1-2 A1-3 表9.2.4 屋根(本庁、訓練棟) B-1 B-2 表9.2.5 BI-1 BI-2 表9.2.6 露出防水 D-1 D-2 表9.2.7 施工箇所 種類 使用量 D-4 同等 本庁車庫屋上 高反射・防火水 アクリル系保護塗料 0.8kg~1.0kg DI-1 DI-2 表9.2.8 屋内防水 E-1 E-2 表9.2.9 断熱材(屋根保護防水断熱工法) 厚さ 図示 ○断熱材(屋根露出防水断熱工法) 厚さ 35 mm 種類 ポリイソシアヌレートフォーム ルーフトン回り及び立上り部周辺の断熱材及び絶縁用シートの張りじまい位置 図示による 絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) フラットヤークロス(70g/m <sup>2</sup> 程度)(保護防水断熱工法) 押え金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0 立上り部の保護 乾式保護材(押出成形セメント板t=15) 普通れんが 化粧れんが モルタル押え(屋内) コンクリート(工法 ) 保護層 平場のコンクリート厚さ 80 mm こて仕上げ mm 床タイル張り等仕上げ mm 屋上排水溝 図示による 脱気装置(露出防水絶縁(断熱)工法) 設ける 材種 ( ) 設置数量(1箇所/㎡)
		2 改質アスファルト シート防水 (9.3.2) ~(9.3.4)
10 石工事	④ 塗膜防水 (9.5.3)	種別 (表9.3.1) ~ (表9.3.3) 種別 防水層 施工箇所 種類 使用量 AS-T1 AS-T2 表9.3.1 本庁庇 カラー AS-T3 AS-T4 AS-J1 表9.3.2 シルバー ASI-T1 ASI-J1 表9.3.3 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ mm 種類 脱気装置(絶縁工法) 設ける 材種 ( ) 設置数量(1箇所/㎡) 防湿層(露出防水絶縁断熱工法) 設ける 設けない 押え金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0
		3 合成高分子系 シート防水 (9.4.2) ~(9.4.4)
10 石工事	⑤ 外装系系塗布防水 (9.6.3)	種別 (表9.4.1) (表9.4.2) 種別 防水層 施工箇所 種類 使用量 ○ S-F1 表9.4.1 本庁庇 カラー PC部材入隅増張(有り無し) シルバー S-F2 S-M1 S-M2 (露出の場合) S1-F1 表9.4.2 PC部材入隅増張(有り無し) S1-F2 S1-M1 S1-M2 S-C1 表9.4.3 特殊塗り厚さ mm S-F1,S-M1,S-F2,S-M2 非歩行仕様 軽歩行仕様 平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ mm 断熱材(機械的固定工法) 厚さ mm 種類 断熱材(接着工法) 厚さ mm 種類 防湿用フィルムを設置する(断熱工法) 可塑性移行防止用シート 発泡ポリエチレンシート 脱気装置(接着工法) 設ける 材種 ( ) 設置数量 (1箇所/㎡) 固定金具の材質及び寸法形状 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した 鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの
		4 下地及びタイル ごしらえ (11.2.6)

10 石工事	④ 塗膜防水 (9.5.3)	種別 (表9.5.1)(表9.5.2) 種別 防水層 施工箇所 種類 使用量 X-1 表9.5.1 A種E-1 屋外階段・バルコニー立上り(共通) X-2 A種E-2 屋外階段部分の塗膜防水については防汚仕様とする Y-1 表9.5.2 地下外壁防水 Y-2 屋内防水 脱気装置(X-1) 設ける 材種 ( ) 設置数量 (1箇所/㎡) 保護層(Y-2) 設ける ポリマーセメント系塗膜防水 施工箇所(訓練棟屋上庇) ポリマーセメント系塗膜防水(耐油性) パラテックス防水8-2工法同等 施工箇所(自家発電機置場ピット部) A種E-1、屋外階段部分の塗膜防水については防汚仕様とする 施工箇所 図示による 種別 9.6.4(2)(イ),(ウ)以外の地下処理 図示による 種類 (表9.6.2) 種別 防水層 施工箇所 C-UI 表9.6.2 C-UP ビット外周部 水張り試験を行う (屋内 屋外) 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事も引渡後10年間以上とする。) 工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 真鍮製エッチング仕上 150×100 設置数量 箇所 シーリング材の種類 表9.7.1による 施工箇所 図示による 仕上げを行わない施工箇所(図示による) 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびり割れ誘発目地 幅20mm以上、深さ10mm以上 幅5mm以上、深さ5mm以上 その他の目地 幅10mm以上、深さ10mm以上 シーリングの試験 簡易接着性試験(部位 ) 引張接着性試験(部位 ) 材質 塩化ビニル樹脂 形状 差込式 据置式 壁張り式 適用範囲 ビット部基礎打継部 垂直:高性能フェノールフォーム 垂直:30mm 材質 水平:発泡ポリエチレン スリット巾 水平:25mm 適用範囲 水平:同部種A-RW(防水タイプ)同等、垂直:同部種A2-Fスリット同等 階段:同部種A2-F(特殊加工区)スリット同等
		5 張り付け材料 (11.3.3)
10 石工事	⑥ 漏水試験 (9.7.2)	⑥ 漏水試験 (9.7.2) ⑦ 保証書 (9.7.3) ⑧ 施工確認 (9.7.5)
		10 止水板 (10.2.1)
10 石工事	⑧ 施工確認 (9.7.5)	⑧ 施工確認 (9.7.5) ⑨ シーリング (9.7.2) ⑩ 止水板 (10.2.1) ⑪ 構造スリット
		10 石工事
10 石工事	1 天然石張り (10.2.1)	石の種類・表面仕上げ (表10.2.1) 施工箇所 種類(産地、名称、形状、寸法) 表面仕上げの種類 ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げ あり なし
		2 テラゾ張り (10.2.1)
10 石工事	2 テラゾ張り (10.2.1)	施工箇所 種石の種類 種石の大きさ 形状・寸法等 表面仕上げ 大理石 1.5~12mm
		3 壁の石張り工法 (10.2.2)
10 石工事	3 壁の石張り工法 (10.2.2)	外壁石張り 工法 外壁湿式工法(流し筋工法 あと施工アコ工法 あと施工アコ横筋流し工法) 受金物の材質、形状及び寸法 外壁乾式工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 金物の種類、形状、寸法等 スライド方式 ロッキング方式 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 専門工事業者の指定 裏面及び裏打ち処理 行わない 行う(表面処理の場合小口共) ドレンパイプ ステンレスSUS304 目地 一般目地幅 mm 伸縮調整目地位置 シーリング材の目地寸法 mm
		4 下地及びタイル ごしらえ (11.2.6)

10 石工事	4 床及び階段の 石張り (10.6.2) (10.6.3)	内壁石張り 工法 内壁空積工法(あと施工アンカー横筋流し工法 あと施工アンカー工法) 乾式工法(スライド方式 ロッキング方式) 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 専門工事業者の指定 裏面及び裏打ち処理 行わない 行う 目地 一般目地幅 mm 伸縮調整目地位置 シーリング材の目地寸法 mm あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 材質 寸法 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 (床石張り) 適用する 適用しない 石裏面処理 (床石張り) 適用する 適用しない 裏打ち処理 (階段石張り) 適用する 適用しない 目地 一般目地幅 mm 伸縮調整目地位置 シーリング材の目地寸法 mm 笠木、甲板等 取付工法 湿式工法 乾式工法 取付金物 石の厚さ mm 石裏面処理 行わない 行う 石材裏面の補強用モルタル(乾式工法) 行わない 行う 目地 一般目地幅 mm 伸縮調整目地位置 シーリング材の目地寸法 mm あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 材質 寸法 隣て板 石の厚さ mm
		5 特殊部位の石張り (10.2.2) (10.7.1) ~(10.7.3)
11 タイル工事	① 伸縮調整目地等 (11.1.3)	外壁 表11.1.1による 図示による 屋内壁面 図示による 床面 表11.1.1による
		② 施工後の確認及び 試験 (11.1.7)
11 タイル工事	③ タイル張り (11.2.2) (11.2.6) (11.3.2) (11.3.5)	浮きの確認 全面打診による確認を行う 接着力の試験 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う 行わない タイルの種類 施工箇所・形状・寸法(mm) 生地 釉薬 耐凍害性 耐滑り性 役物 色 工法 その他 外構床 400角 磁器 無釉 有り あり 有り 標準 湿式 内装床 磁器 施釉 無し 無し 無し 特注 トイレ 70 ○磁器 無釉 有り ー 有り 標準 湿式 壁面 磁器 施釉 無し 無し 無し 特注 トイレ(汚重タイル) 磁器 無釉 有り 有り 有り 標準 陶器 施釉 無し 無し 無し 特注 タイルの試験張り 行わない 行う タイルの目本焼き 行わない 行う 既調合モルタル
		4 下地及びタイル ごしらえ (11.2.6)
11 タイル工事	④ 下地及びタイル ごしらえ (11.2.6)	下地モルタル塗りを行うコンクリート素地の下地処理 MCR工法 目張り工法 図示による ○
		5 張り付け材料 (11.3.3)

工事名		図面の名称		作成年月日	
相築中部消防組合消防本部(署) 新庁舎建設工事		【共通】 特記仕様書(3)		2023/03	
NEJEC 株式会社ニュージェック		管理技術者名		図面番号	
小田 文武		設計者名		縮尺	
		安川 雅巳		A1:- A3:-	
				A-003	